



香港事務所

NCB 海外レポート

大湾区の未来と可能性②

～大湾区のイノベーション・テクノロジー～

前回のレポートでは、大湾区計画の概要と7つの柱となる取組みをご紹介いたしました。第2回目となる今回は、計画の要となるイノベーション・テクノロジー（I&T）分野の発展において、香港に求められている役割について解説いたします。

◇ 大湾区における香港の役割とイノベーション・テクノロジーへの期待

- ・ 9千社近い海外企業の拠点が設置され、総人口の1割程度（約67万人）を外国人が占める香港は、金融・物流・貿易などの分野における世界有数の国際ハブ都市です。
- ・ 香港に世界中の企業や人が集積している背景には、自由な資本移動や外貨交換、国際的なビジネス活動を可能にする整備された法制度があり、特に税制は中国本土と比較しても簡素で低税率となっています。
- ・ 大湾区計画においては、香港はこれらの国際ハブ機能に加えて、I&T分野のハブとしての地位を確立することも目指しています。アジアの代表的なI&T都市といえば、テンプルやファーウェイなどを輩出した深センが挙げられます。近年、高速鉄道の開通により香港―深セン間が片道20分足らずで往来可能となっているほか、両都市の境界地域の開発（香港における「北部都会区発展計画」）など、大湾区の発展の中心として両都市の関係深化が進められています。

◇ 香港・大湾区におけるイノベーション・テクノロジー環境

- ・ 香港には国内外の企業が入居するI&T推進施設が複数あり、そこではスタートアップ企業や大学と、政府系の研究開発センターとの共同研究開発等が行われています。
- ・ これらの活動には、補助金や税優遇、政府系ファンドの出資などのサポートがあり、香港に拠点を有していれば海外企業でも活用することが可能です。
- ・ 更に近年、香港と深センの両都市では、中国本土の企業や研究機関との共同開発などを促進すべく、「イノベーションテクノロジーパーク」の整備が進められています。企業や人材の誘致にあたっては、税制面の優遇や、香港における会計士・弁護士・エンジニア等の専門資格を、大湾区内でも有効とする政策が実施されています。
- ・ 従来、海外企業の香港拠点は財務や物流等の統括拠点として活用されることが多かったですが、将来的には香港のI&Tインフラの活用や世界中のI&T企業とのコラボレーションを目的とした研究開発拠点として活用される機会が増えてくるかもしれません。



香港・深セン イノベーションテクノロジーパーク（イメージ図）
出典：Hong Kong Innovation, Technology and Industry Bureau:
Hong Kong Innovation & Technology Development Blueprint

2023年4月28日作成

西日本シティ銀行香港駐在員事務所